

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

2018 年 被災から 7 年目となる年を迎えました

仙台教区サポートセンター センター長 平賀 徹夫 司教

東日本大震災からの復興のためにいろいろな形で支援をいただけてまいりました日本全国の皆さま、そして、仙台教区の皆さま、あけましておめでとうございます。お元気に新しい年、2018 年をお迎えになられたでしょうか。

年の初めに当たり、改めまして皆さまに心からの感謝を申し上げ、神さまからの祝福が皆さまと皆さまのご家族の上に豊かに注がれますようお願いしながら、ご挨拶を申し上げます。

さて、東日本大震災と福島第一原発の爆発という前代未聞の大災害から 7 年目となります。これまで、カリタスジャパンはじめ全世界および日本全国の教会からの支援、男女修道会の皆さまのお働き、そして、カトリック系の学校の学生・生徒の皆さんや一般の方々等、駆け付けてくださったたくさんのボランティアさんに力づけられて、復興支援活動を行ってきました。本当にありがとうございました。

大震災発生から約 6 ヶ月は、緊急避難所に避難された被災者への支援展開の時期でした。被災された方々を探し歩き見つけ出すこと、水や湯、食料や暖房器具の配布等もしました。

徐々に、あちこちに多くの仮設住宅団地が建てられ入居も始まりましたが、支援活動もこの第 2 期となると、仮設団地の方々のコミュニティー作りの仕事が求められました。例えば“お茶っこサロン”への参加呼びかけです。また、“みなし仮設”に住む被災者への援助もありました。“谷間に置かれた人々”へのケアです。子どもたちへの配慮や傾聴活動も展開されました。ボランティアさんの力仕事で、家屋や側溝などの掃除やドロ掻き、写真洗浄、農業者や漁業者への支援もしてきました。

津波被災地帯では、復旧工事や災害復興公営住宅の建設なども進み、復興が進んできたのが見えるのはうれしいことでした。そして、この仮設住宅から災害復興公営住宅へと移られる時期の支援活動が、第 3 期にあたります。でも、その被災された方々は今、どうしておられるのでしょうか。人々の内面の復興も進んでいるのでしょうか。

仙台教区の復興支援活動は今、第 4 期を歩んでいます。支援活動の内容や方法は時とともに変わりますが、基本はあくまでも人を大切にする「泣く人と共に泣き、喜ぶ人と共に喜ぶ」という寄り添いの精神です。ベースをはじめとした各地の様子からは、“谷間に置かれた方々”の心細さが、より顕著になっていることが感じられます。特に福島第一原発の避難者は何重もの分断に苦しんでおられます。仕事や世代の都合による家族内の分断、故郷の土地や共同体からの分断等。そのような人々のことを常に心に留めながら、寄り添っていきたいのです。



被災から 7 年となる今、改めて思います。日本のカトリック教会は「発災から 10 年は続けよう」との意志をもって、長崎・大阪・東京の三管区挙げて、はるか遠隔の地から人も物資も送り、拠点となるベースを据えて、被災現地の人々と深く関わっていただきました。「発災から 10 年間」の折り返しを過ぎましたが、皆さまからの励ましをいただきながら、支援活動を続けてこられたことに、心から感謝いたしております。

仙台という被災教区に住む私たちは、多くの方々のお祈りに支えられ、被災した方々と共にあるということを常に意識しながら、これからも歩んでまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

新しい年の初めにあたり、皆様への感謝と皆様の上に神様の豊かな祝福をお祈りいたしております。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今回は、昨年 12 月に原発事故により福島県双葉郡浪江町から避難した人々の住む福島市宮代仮設集会所での活動を終えた松木町教会「愛の支援グループ」に、これまでの活動を振り返っていただきました。また、12 月にカリタス石巻ベースが、ベースで行ったクリスマス会の様子と、長年、東松島市ひびき工業仮設住宅お茶会で関わった方々が多く住んでいる防災集団移転団地「野蒜ヶ丘（のびるがおか）」で、自治会と協力して開催したクリスマス交流会についてご紹介します。日頃から石巻ベースの活動を、仙台・塩釜地区のカトリック 8 教会が、「チーム・カリタス仙塩」として支えています。この 2 つのクリスマス会もチーム・カリタス仙塩のメンバーが支え、盛り上げてくれました。さらに、野蒜ヶ丘クリスマス交流会は、神奈川県や千葉県からのボランティアさん、イエスのカリタス修道女会のシスター方のご協力もあり、約 60 名の住民の皆さんに楽しんでいただきました。また、全国の支援者の皆さまから多くの支援物資をいただき、クリスマスプレゼントとして参加者へお渡しすると、大変喜ばれました。クリスマス会を支えてくださった全ての皆さまに改めて感謝いたします、ありがとうございました。

「一緒に泣いて笑ってありがとう」

松木町教会「愛の支援グループ」代表 鈴木キミ子

あの日から…

7年前、東日本大震災、東京電力福島第一原発事故を受けて、福島県民は放射能汚染という、それまで考えてもいなかった恐怖に襲われました。そして、私たちは、原発の「安全神話」が崩れてしまった状況と、情報不足の中で、教会として何が出来るだろうか。

松木町教会では、2009年2月に自主活動として「愛の支援グループ」が設立されていました。震災直後から、その活動の一つとして「小さなことからでも、出来ることをしましょう」と、教会内に避難者やボランティアさん方を受け入れる準備として、毛布の寄付を教会の皆さんに呼びかけるところからスタートしました。次に、流出物写真洗浄（相馬市）と被災地視察。福島市内でもマンモス避難所となっていたあづま総合体育館避難所に直接電話連絡で知ることができた衣類不足、即、教会に呼びかけましたところ、予想を超えたご協力をいただきました。また、その避難所に届けられた支援食材を活用した「避難者同士の炊き出し」を手伝うこともありました。

これらの被災者支援活動は、教会の支え合う心が一つになって4月～8月まで同時進行していました。

あのとき（原発事故）、もし福島市民の私たちに避難指示が出されていたらと思うと、避難所での悲しい光景と自分たちが重なり、他人事ではありませんでした。そのような中で6月のある時、避難者の方々にどのようにしたら寄り添うことができるだろうか。茶の湯の「もてなしの心」でお役に立てないだろうか。間もなく、避難所事務所の了解も得られ、ロビーで「ふれあい茶の湯」を始めました。

野の花の茶花を数点飾りましたところ、心を寄せてくださり、一服の温かい抹茶にほっこりとなって、避難されたときのこと、ふる里のことなど話し始められました。

活動の内容は「ふれあい茶の湯」をベースとし、月平均2回。苦しい避難生活の中に、良い思い出づくりとして、ひなまつり、夏まつり、敬老会、クリスマス、もちつき大会など…の年中行事も取り入れてきました。回を重ねるごとに心の交わりもでき、私たちを「カリタスさん」と呼ばれるようにまできました。

帰町が現実的に難しくなってきたころから自治会役員の負担も多くなり自治会解散となりました。それを機に私たちの繋がり方として「カリタスからのおたより」を毎月発行しています。この便りが「ここちよい風」の便りになることを願っています。



【浪江町】猪が掘った穴



浪江町 家屋解体中

あれから間もなく7年

宮代仮設の現在の入居数は6世帯です。浪江町は、2017年3月31日に一部の地域を除いて避難指示解除となりましたが、多くの町民は、思い出のたくさん詰まった家を取り壊さざるを得ないのが現状です。昨年11月末、久しぶりに浪江町内を案内していただきました。家は荒れ放題、庭は猪が掘った大きな穴一面、解体順番待ちの家々、新築して数ヶ月だけ住んだという家の解体を目の当たりにして心が痛みました。原発事故さえなかったら平和なふる里であつたらうに。金では代えられない全てのものを失ったのです。今、元気になったように見える人たちには、いつもあのようなふる里が目に見え、悲しく、切ない思いが頭から離れていないようです。

そして、仮設生活も5年も経ったころから、耐えられない厳しい現実、気持ちに疲れが見え始め、励まし合ってきた仮設の仲間にも様々な問題が起き始めました。「カリタスさ～ん！…」の叫び声に私たちの祈りから次のようなことが生まれました。

(1) 「コスモス宮代」と呼ぶ

「めざせ！5年後に生きている自分！」と仮設に大きく貼られ励まし合っていた「あの頃」のことを思い出し、仲間を大切にしたいと願ったのです。コスモスは浪江町の町花、宮代仮設の宮代から「コスモス宮代」と名付けて、宮代仮設に住んでいる方、転出した方への呼びかけ名としたのです。今はすっかり馴染んでいます。

(2) 「赤ちょうちん宮代」（夕餉の会）

月2回のうち1回の昼食会に都合がつかない方を交えての夕食会。仮設の方々の希望により「赤ちょうちん宮代」の名に。酒も楽しく飲み、飲まなくとも赤ちょうちんの灯が癒しとなりカラオケを歌う人も聴く人もあったかい雰囲気赤ちょうちん。

昨年11月25日、最後の「赤ちょうちん宮代」でした。大家族に乾杯!!



(写真上) あづま総合体育館避難所ロビーでの「ふれあい茶の湯」



(写真左) 松木町教会 支援物資の仕分け

あの年の8月に避難所が閉鎖され9月からは、カリタスジャパン、CTVC（カトリック東京ボランティアセンター）のご支援をいただきながら、相馬市大野台仮設、福島市宮代仮設へと活動も移っていきました。

当時（9月）宮代仮設には、全く支援がありませんでした。私たちとの出会いは、浪江町からの紹介でした。宮代仮設住宅（浪江町民入居）176戸の内、入居者は47世帯でした。まだ自治会もありませんでしたが、10月になって自治会発足間近に浪江町社協の案内で、集会所に伺うと、役員男性5名が待っていてくださいました。そして、「よろしくお願ひします」と、全員目が潤んでいたことを今も忘れません。あのとき、最後の一人まで寄り添うことができますようにと祈りました。



「赤ちょうちん宮代」の様子

(3)「コスモス宮代のうた」(高校三年生の替え歌)

この替え歌は、2016年のクリスマス会にコスモス宮代の方々と松木町教会聖歌隊との混声合唱団(一度も練習なし)で発表したのがデビューでした。心一つになれる歌をと思い、皆さんの心情を分かっている範囲で思い巡らしながらの替え歌。皆さんに愛される歌となって、毎回集まりの最後には全員で歌われるようになりました。

さて、仮設集会所が昨年12月で閉鎖されるため、仮設では最後の集まりとなるもちつき大会を12月9日(土)に行いました。県内に転出された方々も、心のふるさとの宮代へたくさん集まってくださり楽しいひとときを過ごしていただけたようでした。浪江町役場福島出張所長さんもお越しくださり宮代仮設とカリタスの温かな繋がりをお感じになられたご様子。松木町教会からは、支援活動毎に派遣の祝福をしてくださっているトマス神父様はじめたくさんの参加。県外からも、平賀司教様、仙台サポセン、CTVC、関東方面からと多くの笑顔をお届けしてくださり、80名近いもちつき大会となりました。



トマス神父様による派遣の祝福

もちつきの後は、集会所内で、フルート演奏、カラオケ、腹の底から笑えた出しものなど熱気に満ちた交わりから、別れを惜しみながら「コスモス宮代のうた」「今日の日さようなら」を大合唱し、再会を楽しみに「165回一緒に泣いて笑ってありがとう」の幕を閉じました。



7年近くにわたってこのような活動を継続できましたのも全国の皆様のお祈りとご支援、さらに、カリタスジャパン、CTVCのご支援のお陰です。私たちは、この間にたくさんの神様の聖霊の助けを実感することができ、人として、カトリック信者として様々なことを学び、深めることができましたこと、心から感謝いたしております。



今後について

福島県も、復興へ進んでいます。しかし、心の復興はどうでしょうか。前に進まなければと進める人、進めない人と様々でしょう。コスモス宮代の皆さんとこれからどのように関わり続けて心の復興に向かって共に歩いていけるのか、コスモス宮代の皆さんにアンケートを取らせていただきました。その結果「カリタスさん見守ってください。…」「カリタスさんとの出会いは宝物です。これからも集まりをもって欲しい…」などのメッセージがあり、これらのことを心にとめ、「カリタスからのおたより」を送り続け、災害団地住まいの独居、新居地へ馴染めない不安、様々な分断が生じていることからふる里名を語れない、などの事柄に寄り添っていかうと考えています。

これからも、私たちは、神様の聖霊の助けをいただきながら心の復興へ向かって出来ることを続けながら「福島に共に生きる」ことを一歩ずつ味わっていかうと思います。

カリタスジャパン、CTVC、全国の皆様、お祈りとお力添えをこれまでどおりお願いいたします。

おわりに

福島の支援活動は、東日本大震災と人災による原発事故、そして、やがて原発事故を無くすことは、福島に住んでいる私たち被災者として、切り離して考えることはできないのです。笑顔をお届け、共に歩もうという小さな活動ではありましたが、私たちは、この歩みを通して「福島の厳しい現状」「取り返しのつかない現実」と向き合いながら「未来を信じて元気になろうとしている福島(県)の人たち」「福島に共に生きる」ことなどを発信できるよう願い続けています。「原発事故は、二度とあっては欲しくないこと」ではなく「あってはならないこと」と思います。

石巻ベースでクリスマス会

カトリック一本杉教会 チーム・カリタス仙塩 岩井 誠

昨年12月16日(土)、12時30分から15時までカリタス石巻ベースで、クリスマス会を開催した。

東日本大震災から7年を経過しようとしている現在も、いまだ心に傷を抱えている被災者ら42名(うち男性6名、子ども3名)が集まり、オープンスペースは満員となった。

同ベースのスタッフ3名に加えて仙台からかけつけた「チーム・カリタス仙塩」のメンバー11名が参加者をもてなした。

開会にあたって、ベース長のSr.内原わさ(オタワ愛徳修道女会)は、「クリスマスは、イエス・キリストの誕生を祝う日ですが、キリストが今生きていれば何歳だと思いませんか?なんと2017歳なんですよ」と、ユーモアを交えながら、「キリストの生まれた馬小屋には、平和と希望の光があり、私たちも心の中にこの馬小屋をもっていますよ」と挨拶した。

続いて、Sr.青郷登志子(オタワ愛徳修道女会)が、「ひび割れ壺」という話と、村山晶子(北仙台教会)さんが、大型絵本「花さき山」の読み聞かせをした。2つの話は、どちらも深く心に響くもので、参加者の中には、涙を拭いている方もいた。

その後、テーブルにケーキや菓子が並べられ、コーヒーで乾杯。窪田幸夫さん(一本杉教会)の伴奏で、雪をテーマにした歌「津軽海峡冬景色」や「雪の降る町」などを歌った。さらにクリスマスソングを歌う内に、「ジングルベル」に合わせてサンタクロースが登場。大喜びで配られたプレゼントをさっそく開けて互いに見せ合うなど会場は笑顔がいっぱいになった。

「あしたは、たんじょうび」という3歳の女の子にお菓子の袋をプレゼント。みんなで「ハッピー バースデー」を歌って祝った。

プレゼントの品物やお菓子類は皆、ボランティアや各地の支援者から送られてきた支援物資。

互いに良い新年が迎えられるようにと「もういくつ寝るとお正月」を歌い散会となった。



サンタクロースから皆さんにクリスマスプレゼントが配られた

そしてお昼、自治会の皆さんが蒸したてのカキとカニ汁をふるまってくれました。お腹も心も温まり、おいしさに大感激しているボランティアの姿を見て、作ってくださった方が「おいしいと言ってくれるのが何よりの喜びだ」とおっしゃっていました。



老若男女問わず、ホットケーキへのデコレーションを楽しんでいました



自治会の皆さんが早くから準備して振る舞ってくださったカキとカニ汁

野蒜ヶ丘クリスマス交流会

仙台教区サポートセンター 濱山 麻子

石巻ベースでのクリスマス会を終え、興奮も冷めやらぬ中、12月19日は東松島市の野蒜ヶ丘で「クリスマス交流会」が行われました。野蒜ヶ丘は防災集団移転団地で、10月にまちびらきが行われた新しい地区です。8月まで、カリタスがお茶会で関わっていたひびき工業団地仮設からも、おおぜいの方が入居されました。「ひびきで知り合った方はどうしているだろうか…なにかお手伝いできることはないだろうか」とスタッフが訪ねるうち、自治会長さんから「クリスマスにあわせて、住民同士が交流するイベントを一緒にやってほしい」と依頼がありました。さらに、「今、ここで自分たちが新しい生活を始められたのはたくさんの方の支援のおかげ。お世話になったボランティアの皆さんにお礼がしたい」というお申し出もいただいたのです。

当日は、神奈川、千葉、仙台から17人のボランティアが集まりました。

9時半に野蒜ヶ丘2丁目集会所に集合すると、自治会の皆さんが、すでに集会所の外で準備を始めていました。ボランティアも持ち場に分かれ、コーヒーを沸かす人、お菓子をセットする人、皆で食べるケーキにデコレーションをする人など…にぎやかに準備がはかどります。



各所でボランティアさんが大活躍してくれました

10時半開始の予定でしたが、10時には住民の方が集まり始めました。ひびきでおなじみになっていた方々とボランティアが「元気になっていた?」「よく来てくださったね」と再会を喜ぶ姿がありました。

「できたばかりの街ですから、これから皆で仲良くしていきましょう!」と自治会長さんのごあいさつで交流会がスタート。まずは、皆さん一人ひとりに、ホットケーキを土台にしてホイップクリームや砂糖菓子でオリジナルのデコレーションケーキを作っていました。女性や子どもさんが中心になるかと思いましたが、男性たちも楽しんでのご様子でした。ケーキ作りの後は、お茶とお菓子でくつろぎながら、ボランティアさんによる抹茶のおもてなしやタッピングタッチを受ける方、お話を楽しむ方など、ゆったりとした時間が流れました。

午後には、東京からイエスのカリタス修道女会のシスター7人が到着しました。「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」などおなじみのクリスマスソングに始まり、「君は愛されるために生まれた」「花は咲く」「川の流れるように」など、たくさんの歌を披露してくださいました。まさに天使の歌声…と、皆さんが堪能しているところに、歌声に誘われてサンタクロースが登場! おひとりおひとりに、プレゼントをお渡ししました。

ご参加の皆さんからのリクエストで「君は愛されるために生まれた」の手話をシスターに教えていただき、皆で合わせて歌ってお開きとなりました。「今日はどうもありがとう」「また会いましょうね」と皆さん笑顔で帰っていかれました。

自治会では、今後も住民がおおぜい参加できるイベントを企画するそうです。そしてその合間に、野蒜ヶ丘や周辺の地域に暮らしている方々が集まって楽しく過ごせるようなお茶会をカリタスに開いてもらえないかという依頼がありました。「ひびきに住んでいた方たちが、今日はとても嬉しそうにしていた。皆が集まることができる場所が必要なのだと思います」と自治会の役員さんがおっしゃっていました。自治会長さんはじめ、皆さんが、「皆で明るく安心して暮らしていけるようにしよう」という、今まさに立ち上がろうとしている力強さを感じました。「カリタスさん」として、久しぶりの再会も、新しい出会いも大切に、これからも関わりを続けていければと思います。



自治会長さんの挨拶



サンタクロースも登場



イエスのカリタス修道女会のシスターとともに手話を交えての合唱